

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察 期考査・小テスト 課題提出 漢字テスト	授業態度の観察 期考査・小テスト 課題提出 文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く一小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』
大修館書店『新編 論理国語 学習ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	数学A	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	場合の数と確率及び図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	事象を的確に捉え、それを数学的論理に基づいて言語で表すことができる。	自ら研鑽し、不明点を明確にしようと考え、行動できる。
	A わかる	事象を的確に捉え、数学的論理を考察することができる。	授業での問いかけに発表をしたり、質問をすることができる。
	B できる	計算過程や考え方をノート等に表現することができる。	指示した課題を期限内に取り組むことができる。
	C する	問題を内容、事象を把握し、状況を整理することができる。	板書や教員の発言に対してメモをとっている。
評価方法	定期考査 授業での演習	定期考査 授業での発表	授業態度 提出物の状況 授業での発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	場合の数 確率
2 学期	平面図形 空間図形 約数と倍数
3 学期	ユークリッドの互除法 2進法 点の位置の表し方 数学とゲーム・パズル

何で学ぶか(教材)

新 高校の数学A（数研出版） 新課程ポイントノート数学A（数研出版） プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 グループワーク ペアワーク

科目名	公共	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポ科 コース 体育	
目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会とのかかわりをふまえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成することなどについて考察することができる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現実社会の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとする事ができる
	A わかる	現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現実社会の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとする事ができる
	B できる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとする事ができる。
	C する	事実をもとに考察することができる	現実社会の諸課題に対して、主体的に理解しようとする事ができる。
評価方法	・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 編 公共の扉 第 2 編 第1章法的な主体となる私たち
2 学期	第 2 編 第 2 章 政治的な主体となる私たち 第 2 編 第 3 章 経済的な主体となる私たち
3 学期	第 3 編 持続可能な社会づくりとなる私たち

何で学ぶか(教材)

高等学校新公共（第一）
高等学校新公共準拠ワーク（第一）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペアワーク
グループワーク
ディスカッション

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 生物の特徴 第 2 章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第 3 章 体内環境と恒常性
3 学期	第 4 章 植生の多様性と生態系

何で学ぶか(教材)

第一学習社 高等学校新生物基礎(711)
第一学習社 ネオパルノート生物基礎

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 実験，実習 グループ活動

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準 S A B C 使える わかる できる する	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。
	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ、内容を的確に理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	基本的な英文を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解できる。	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	できないところを人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	モデル文を真似て読んだり書いたりすることができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業に臨むための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・プレゼンテーション

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 Place Worth Visiting Lesson2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer
2 学期	Lesson3 The Haka Lesson4 Digital Detox Lesson5 Goal Setting
3 学期	Lesson6 The High School Hair Salon Lesson7 You Can Make a Difference

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication Ⅱ
COMET ベーシックノート
COMET 基本文法定着ドリル
COMET 英単語

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	論理・表現 I	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育クラス	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える パラグラフの構成に基づいて情報や考えなどをまとめ、文章を書くことができる。	聞き手や目的に応じて、紹介するトピックを決め、原稿書いたり発表したりすることができる。	積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	<i>A</i> わかる 読み手や目的に応じて、つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。	自分のことや与えられた課題について書いたり即興で話したりすることができる。	間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。
	<i>B</i> できる モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。	学んだ文法を使って、文章を簡潔に書くことができる。	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。
	<i>C</i> する 学習した文法を理解し、知識として定着している。	例文を英語らしい発音で発話することができる。	授業を受けるための準備ができている。
評価方法	小テスト・定期考査など	定期考査・パフォーマンステストなど	授業中の取り組み・課題提出など

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	L1 Let's talk about Ourselves L2 School Life
2 学期	L3 The arts L4 Food and Culture
3 学期	L5 Welcome to Our Town

何で学ぶか(教材)

三省堂 MY WAY Logic and Expression I

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習 ICTを活用した教材

科目名	スポーツⅥ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育

目標 初動負荷マシンを利用したウェイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・グループトレーニング ・映像学習（動画）

科目名	スポーツ栄養	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	スポーツをする競技者だけでなく、健康増進のための食事のとり方を学び、将来指導者としても保護者としても活用できるよう、栄養の基礎を学ぶ。また、アスリートがスポーツ栄養学をどのように活用しているか、実践方法について学ぶ。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	競技特性に応じた、能力向上に必要な栄養素を理解している。	競技特性に応じた、能力向上に必要な栄養素を判断でき、そのメリット、デメリットを説明できる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働してスポーツ栄養について考察しようとする。
	A わかる	アスリートとして必要な栄養や、摂取時間等を理解できる。	アスリートとして必要な栄養や、摂取時間等を判断し、その効能について説明できる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働してスポーツ栄養について考察しようとする。
	B できる	スポーツ選手の食事について、一般の人と異なる考え方や競技特性による違いなどをする。	自分の競技において、どの実施方法が適しているのか判断し、説明ができる。	提出物の準備ができている。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装）
評価方法		授業，定期考査，発表	授業，定期考査、発表、提出物	授業，提出物，発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スポーツと食事 五大栄養素の役割 水分補給について
2 学期	エネルギーバランスについて スポーツ選手の身体組成 ウェイトコントロールについて 試合期の食事の取り方
3 学期	スピーチ（1分間），テーマ型小論文、課題文型小論文などで、1年間の気づきや感想をまとめる。

何で学ぶか(教材)

プリント chromebook

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク，ペアワーク，課題，講演

科目名	スポーツ概論	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	スポーツとは何か総合的に理解し、学んだことを競技力向上に繋げるスポーツ人を目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	様々なスポーツから学び、取り組んでいるスポーツの競技力向上に繋げることが出来る。	他競技を分析し、自らで論理的に考え的確に専門競技で表現できる。	他競技の人と意見を交わしながら、自らの競技に繋げ評価・改善しようとする事が出来る。
	A わかる	取り組んでいるスポーツから課題を発見し、競技力向上に繋げることが出来る。	専門競技、自らの動作を分析し説明することが出来る。	スポーツにおける自らの改善点を振り返りながら仲間と共に競技力向上に繋げることが出来る。
	B できる	学んだ知識、技能を実際にスポーツで活かすことが出来る。	適切な用語・記号を使い、他者に分かるように説明することが出来る。	分からない点等を自ら人に聞いたり、他の者が困っている時に一緒に考察することが出来る。
	C する	スポーツについて基本的な知識を学んだり、理解したりすることができる。	基本的な知識の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることが出来る。	授業を受けるための準備が出来ている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スポーツの魅力について スポーツのこれからとこれまでを考えよう 現代スポーツ/スポーツと社会について オリンピックとパラリンピックについて
2 学期	競技力向上に必要な知識について 競技を向上させる練習方法・練習計画
3 学期	メンタルトレーニングについて 指導体制や情報戦略について

何で学ぶか(教材)

大修館書店「改訂版 基礎から学ぶスポーツ概論」 プリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 タブレット教材 レポート作成

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる 基礎練習を正しくおこな い，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	保健	授業時数	週	1 単位	
		コース・学年	スポーツ科学	コース	2 学年
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、日常生活における自らの課題を発見し、目標を立てて学ぶ力を身に付ける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康、性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康、医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全を守る活動 働くことと健康、働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目 標	グループの活動を行う中で、他者と協力してより良い作品を作り上げていくことを通して、協働力、実行力、発信力を養う。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 調べた知識をもとに、言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	プランを考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる 学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	プランを考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる 学んだ知識をもとに、他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	プランを考える中で、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する 学んだ知識をもとに、難しい課題にも取り組もうとする。	プランを考える中で、他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	競技内容などの成果物	プランの内容などの成果物、グループ活動	競技内容などの成果物、グループ活動

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	①Opening story
	最近身の回りで気になった10のこと ちょっと頑張ってみたいこと
2 学期	②Plan Sheet
	③3Step Challenge
	④8Questions エントリー
3 学期	気づき・まとめ

何で学ぶか(教材)

chromebook スタディサブリ

どのように学ぶか(授業方法など)

- 個人での調べ学習 - グループごとの活動 「高校生R!ng」へ参加

科目名		書道 I	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身に付け表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
	漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
	漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法	提出作品 学習シート 考査	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・漢字仮名交じりの書の学習Ⅰ ・漢字の書の学習(行書)「集王聖教序」 ・漢字の書の学習(行書)「蘭亭序」 ・漢字の書の学習(楷書)「風信帖」
2 学期	・漢字の書の学習(行書)「争坐位文稿」 ・漢字仮名交じりの書の学習Ⅱ ・期末考査
3 学期	・仮名の書の学習 ・漢字仮名交じりの書の学習Ⅲ

何で学ぶか(教材)

教育図書『書Ⅰ』 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業(講義・実技) グループ学習(相互批評等) 鑑賞学習

科目名	美術 1	授業時数	週 1 単位
コース・学年	ポートフォリオコース	2 学年	
目標	幅広い美術活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	表現：自己のイメージを表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられ、さらに思考することができる。	全ての学習を通して積極的であり、美術表現を工夫することができる。
	A わかる	対象や事象を捉える造形的な視点と意図に応じて表現方法を創意工夫する関係を理解している。	表現：形、材質などの表現ができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられる。	個人制作及びグループ学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	対象や事象を捉える造形的な視点の基礎的な表現技法を身につけて表している。	表現：構図を考え表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝えられる。	表現・鑑賞の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	日常生活の美術の効用や美術の歴史、文化について理解することができる。	表現：関心を持ち表現することに喜びを感じる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	提出作品 ワークシート 考査	授業 提出作品 ワークシート 考査	授業 ワークシート 考査	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	オリエンテーション 造形表現その一（彫刻） 造形表現その二（版画） 共同作品 美術作品鑑賞その一
2 学期	絵具の制作と表現（絵画） 造形表現その三（デザイン/彫刻） 期末考査 美術作品鑑賞その二
3 学期	自己と表現の考察 造形表現その四（絵画/彫刻/etc.） 美術作品鑑賞その三

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1（日本文教出版）／ワークシート／パワーポイントなどの映像資料 副教材：スケッチブック、鉛筆、絵具（中学、高校 1 年次から使用しているものでも可）／各の題材に必要な材料は学期ごとに購入します。

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業（講義・実技） グループ学習（作品制作・鑑賞など） 鑑賞学習 ※chromebookを用いた ICT 授業も行いますので必要に応じて持参してください。
--

科目名		音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目 標	・幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。				
	・音楽・スポーツ共通の重要事項であるリズム感を身につける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	<i>S</i> 使える ・読譜能力を身につけ歌唱・リコーダーの演奏ができる。 ・音楽の歴史的背景を理解し鑑賞することができる。	楽曲のイメージと自己のイメージを結び付け、表現するための技能を身につけることができる。	・グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。
基	<i>A</i> わかる ・ボディパーカッションにより体を使ってリズム感を身につけることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティケレーションや強弱をつけた表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。 ・積極的に音楽を鑑賞することができる。
準	<i>B</i> できる ・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・井やトのあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
評価方法	<i>C</i> する ・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 ボディパーカッション 実技テスト
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」 ボディパーカッション 期末テスト 実技テスト
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」 実技テスト

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSA I」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名		選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通して、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育む。				

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で，技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中の状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出したりすることができる。	各競技での経験を生かし，問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようとするることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し，より大きな力を発揮するために，集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	専門体力を有し，競技に応じた技術を身につけている。	専門競技に必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり，他の人が困っている時に一緒に考察することができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身につけている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，食育，または栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業	授業	授業

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎演習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技による

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
競技ごとの練習